

平成24年度『卒団証書授与式』答辞

本日は、私たちのために卒団式を開いていただき、ありがとうございます。

平成24年度各務原市スポーツ少年団野球部会所属6年生を代表いたしまして、お礼を申し上げます。私たちは、本日をもちまして卒団します。

在団中は、各務原市軟式野球連盟の皆様、各務原市スポーツ少年団野球部会の林部会長様、海津審判長様、そして審判団の皆様、各団会長様ほか、多くの方々に大変お世話になりました。

感謝の気持ちでいっぱいです。

そしてただ今、中央野球 小林監督様より心あたたまる送辞をいただき、ありがとうございました。

これまで「勝利」という目標に向かって日々共に練習し、戦ってきた仲間と今日でお別れです。

私は一年生の時から、スポ少野球に入団したいと思っていました。しかし、男の子の中で女の子が野球をやっていく事は出来ない、と家族は反対しました。

それでも私は、その後も「入団したい」という意志を曲げませんでした。そんな私の強い意志を父は分かってくれ、三年生の時とうとう入団する事が出来ました。そして、父はコーチにもなってくれました。

そこから家族での野球道が始まりました。

暑い日も寒い日も二人で練習に行き、試合の時は家族と一緒に喜び、悔しがってくれました。

父はよく、帰りの車中で試合を振り返り、エラーをした私の事を怒りました。私は悔しくていつも泣いていました。

しかし、今振り返ってみると、その悔しい思いがあったからこそ、「もっと上手になりたい」と思え、これまで野球を続けてこれたと思います。

そして、もう1つ心の支えとなったのが、チームメイトと監督の存在です。

入団当初、エラーばかりする私をチームメイトは責める事なく、励まし、温かい言葉をかけてくれました。

人を受け入れ、許し、お互いを認め合う優しさを知りました。

野球部会2013

監督は、私を女の子だからと特別扱いする事はありませんでした。男の子と同じように指導して下さいのおかげで、ボールも取れなかったような私が、ファーストを守れるまでになりました。

スポーツに性別は関係ないと思わせて下さいました。

そんなみんなの前で打てたホームランは、私の誇りです。

ずっとこのチームでプレーがしたい。そう思いながら、今日という日を迎えてしまいました。しかし私は、まだまだ前に進んでいかななくてはなりません。

そして、進んでいく先にはこれからも悩みや迷いがあるかと思います。そんな時はどうか、今までと同じように温かく、そして厳しいご指導をお願いします。

最後になりましたが、監督・コーチ、お父さん、お母さん、今までに本当にありがとうございました。

今も耳に残る応援の声、忘れません。

野球は楽しかった。やっぱり野球をやってよかった。

皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです、

ありがとうございました。

平成 25 年 3 月 3 日
各務原市スポーツ少年団 野球部会卒団生代表
那加第二野球 中川 穂香